

国際保健医療人材を地域から世界へ

平成 25 年 11 月

特定非営利活動法人 GLOW 加藤 琢真

1. はじめに、自己紹介

この度、日本青年会議所主催第 27 回人間力大賞コンテストにおきまして、外務大臣推奨賞を頂きました加藤琢真と申します。私は地域医療で活躍することを夢見て医師になることを決断しましたが、医学生の際、アフリカでの HIV/エイズの現状を目の当たりにし、国際保健医療分野へも貢献したいという想いを抱き始めました。その後小児科医となった後に特定非営利活動法人 GLOW を立ち上げましたので、本「グローバル通信」でその活動をご紹介します。

2. 活動の契機

医師や看護師など医療職の一部は、メディアなどを通じ、開発途上国の悲惨な健康状態の子どもたちなどに衝撃を覚え、医療職を志しています。しかしながら、そのような開発途上国に保健や医療を通じて貢献したいという夢への確かな道筋はなく、結局は、志ある医療者の大半が、現実的には目の前の患者さんへの対応のみに明け暮れ、その想いを形にできていないのが現実です。私は研修医時代に地域医療を学ぶ中で、地域医療と国際保健の近似性から、地域医療の現場にこそ国際保健医療への関心を持った医療者が多いことを知りました。そしてまた地域医療で学んだ経験こそが、国際保健医療の現場でまさに求められているものなのではないか、と考えたのが、この活動を始める契機となり、若手の医師や看護師が日本の地域医療の現場を足場としながら、開発途上国でも経験を積むこともできる研修プログラムの開発へとつながりました。



3. 実際の活動

GLOW では現在「医師長期研修プログラム」及び「看護短期研修プログラム」を提供しています。日本の地域においても開発途上国へ貢献したい、貢献出来るような人材を育成したいと考えてくれる病院と提携し、海外においては、若手の育成に協力的で開発途上国で活動している NGO などの機関に協力を呼びかけることで、両フィールドの経験が積むことができる画期的なプログラムが実現しました。医師は地域で2年、海外で1年経験し、また地域に戻ってきて海外の経験を地域にも還元する。看護師のプログラムでは3ヶ月や半年単位で同様に地域と海外をつなげています。このプログラムの期間中は、国際保健分野に精通したメンターがついて、渡航準備から滞在中の活動までサポートします。また海外での研修中も病院が一定の給与や社会保障などを提供して下さっています。開発途上国で働くために必要な、マネージメント力、リーダーシップなどのコンピテンシー(能力)を向上させるための研修も提供しています。

4. 今後の展望

現在、日本だけでなく世界も高齢化を迎えるにあたって、生活習慣病への注目度が高まるにあたり、日本の経験や取り組みにより期待がかかっています。日本の地域で育った国際保健医療人材が、その経験を必要としている途上国で貢献し、その貴重な経験を日本にまた持ち帰る。このような連環した動きを広めていくことが、日本が歩むべく道の一つだと確信しています。ご興味がある方はぜひご協力頂ければと思います。どうぞ宜しくお願いします。

連絡先：

E-mail: info@npo-glow.org

Website: <http://npo-glow.org/>

